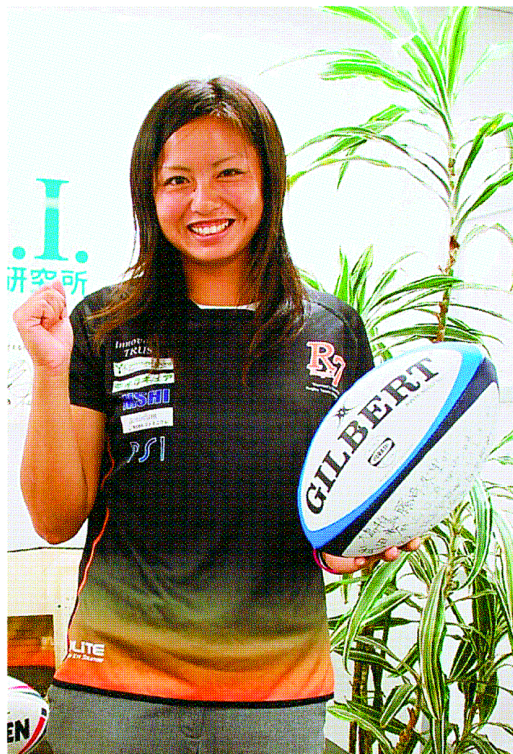


# 幕別出身 代表バックアップメンバーに 桑井さん

【東京】幕別町出身の桑井亜乃さん(22)＝東京都在住＝は、2016年リオデジャネイロ五輪への出場を目指している。競技は、同五輪で正式種目に採用される女子7人制ラグビー。4月に本格的に始め、7月には世代別の日本代表として世界大会に出場、フル代表に手が届く位置にまで急成長している。ロンドン五輪の余韻が残る中、「4年後は遠いようであっという間。応援してくれる家族らに恩返しするため、リオに連れて行きたい」と練習に励む。

## 女子ラグビーで 目指せリオ出場



女子7人制ラグビーでリオ五輪出場を目指す桑井さん

桑井さんは帯広農業高で円盤投げを始め、国体入賞など(東京)で働きながら練習に全国大会で活躍。進学した中京大ではハンマー投げ五輪メダリストの室伏広治選手の指導を受けた。ラグビーとの出会いは大学の授業で、純粹に楽しいと感じた。五輪の正式種目になると聞き、「新しい競技でチャレンジを感じた」と挑戦を決めた。大学卒業後の4月、五輪選手育成を目的としたチーム「Rugby 7 (ラグビーセブン)」に所属。雇用面での代表選出に、ルールや動き方などを学んだ。大会メンバーに追加招集された。

### 五輪正式種目採用 「突破が一番の武器」

世代別世界大会に出場した桑井さん(2列目左から2人目)



「とにかくびっくりした」と振り返る。公式戦デビューとなった世界大会では激しいタックルを受け、あと数センチの距離でトライを阻止された。「バックドロップを食らった感じだった。いい経験」と苦笑する。

着実に成長し、8月にはフル代表の選考合宿に呼ばれた。ワールドカップアジア予選(10月)の代表には選ばれなかったが、バックアップメンバーに名を連ねる。ポジションはスクラムを組むフォワード(プロップ)で、世界の身長と円盤投げで養った体幹の強さを生かす。「真つすぐに突破するのが一番の武器。ディフェンスの間を抜けて独走する瞬間が気持ちいい」と語る。タックルや運動量などを課題に挙げる。十勝に帰省した8月、ラグビーボールを購入しようとしてスポーツ店を巡ったが見つからなかった。「すごくショックだった。十勝の人にラグビーを知ってもらうためにも代表で活躍したい」と決意を新たにしました。



7人制ラグビー フィールドの広さ、競技規則は15人制と同じ。試合時間は7×10分ハーフ。ポジションはフォワード3人、バック4人で構成。15人制と比べ接触プレーが少なく、パスやラン技術が重要になるため日本人に適しているとされる。